

【目次】

1. アーカイブ No.19

連載「日本労働会館物語」第 16 回 2010.09.30 発行の第 18 号に掲載

2. 出張講演イオン九州労働組合・中央執行委員会 72 名

3. 団体見学 UA ゼンセン流通部門・こうべコープユニオン 9 名

4. 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン伝承塾「枝垂桜」 6 名

5. 友愛労働歴史館の夏季休館日のお知らせ

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1.アーカイブ No.19

連載「日本労働会館物語」第 16 回 2010.09.30 発行の第 18 号に掲載

連載 「日本労働会館物語」第 16 回！

< 惟一館の建設その 3 >

惟一館は明治 27(1893)年 3 月 23 日に開館式(献堂式)を行いますが、その内部はどのようなものだったのでしょうか。前号に続きクレイ・マッコレー牧師の報告書から引用すると、「建物の内装は必要な机、椅子、棚、テーブル、その他の設備が施されました。集会室には説経壇とそれに合わせた椅子があり、これは水戸藩の領地で昔から伝わる有名な古木を使用しています。建物全体は電灯を使用しています。塗装していない木の色、壁や廊下の天井に当たる光、また羽目板の漆喰塗りに当たる光、黄褐色や灰色、黄緑色、薄黄色、など色々な色調をかもし出し、それが大変ユニークで賞賛されています。集会室は簡素な点や、家具や色調との調和が特に喜ばれます。特に人目を引くものは、教壇中央の後ろにある大きな黒いパネの上に、金色の古風な漢字で書かれているホール竣工の標語“至誠 正義 雍穆”で、その上には、尊敬すべき副島伯爵の手描きによる『惟一館』の名が、美しい額に納められています。日本人は、こうした歴史上良く知られた、尊敬すべき人物による手描きの宝物を持つことに、特別の誇りを持っています」と記述されています。

これにより惟一館の標語が“至誠 正義 雍穆”であり、また館名「惟一館」を揮毫した人が明治政府の外務卿、内相などを歴任し、「漢詩・書を能くした」とされる副島種臣伯爵だったことが分かります。

マッコレー牧師の報告書は更に続きますが、その主なところを以下に抜粋します。

「我々の新しい文化も含めて、古いものから新しいものへ移行する多くの人々の間に葛藤があります。こうした葛藤、文明、倫理、宗教そしてその他全ての社会関係が混乱し、明らかに危険にさらされています。人々を取り囲む紛争や障害を目の当たりにし、ユニテリアンは、これらの人々に援助を与えずにいるべきではありません。アメリカのユニテリアン協会が達成してきた、こうした任務を試みるのが、我々の使命です。日本の人々が重大な社会的変化を経験している時に、我々は彼らを精神面で援助してきました。我々はこの世における人間の身分や地位を認め、人間の知の発達の無限の可能性、正義、愛、雍穆など、我々の宗教的、倫理的な考えを彼らに示してきました。人の起源、生命、運命など一般的な考え方によって、人間愛が自覚されるように。一言で言えば、科学の発見において最高と認められたもの、また自由な心で出された見解は何であれ、我々はそれを受け入れています。それが日本の人々の宗教、倫理、社会生活に影響を与えており、我々は力の及ぶ限りそれを捜し求め、現在重大な体験をしている日本の人々を保護する手段として、それを伝えています。こうした活動は、確実に理性的で人道的な考えをもつ全ての友人たちに、好印象を与えています。」

「我々の活動で、人間の福祉以上に大事なものはありません。即ち、魂の無知、倫理的混乱と墮落、社会的無秩序から人を守ることです。それは合理的かつ生命体としての神、個人の魂を意識すること、精神的かつ倫理的規定、個人と社会を明確に認識することを意味します。実際、使節団は、宗教と道徳のために、西洋から日本へ送られた使者です。また物理学や力学的発明、産業などの新しい文明の重要性を説明すると、日本人はそれらを学び活用することを、心から望みます。」

ここに惟一館のこと、ユニテリアンの使命・役割、日本でのユニテリアンミッションの意義などが記述されています。（連載第 16 回終り、文責・間宮悠紀雄）

2. 出張講演・イオン九州ユニオン・中央執行委員会 72 名

7 月 6 日(土)、UA ゼンセン流通部門・イオン九州ユニオンの中央執行委員会 72 名に対し、「未来に向け労働組合が果たすべき役割」～組織力向上のため労働組合の存在意義とリーダーに今求められるもの～を演題として 120 分の講演をした。歴史は未来を見る鏡であるとして、常設展示の「日本労働運動の 100 年余」に加えて、友愛会や社会主義運動など「友愛会の運動の詳細から民主的労働運動を探る」と称し、現代につながる運動の流れを講演。

期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の講演を説く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念

や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」「生産性運動三原則の変遷」「今必要なリーダーシップ」など盛り沢山。鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。皆さんとっても熱心に受講しました。

3. 7月8日(月) UA ゼンセン流通部門・コープこうべユニオン 9名が来館・見学

7月8日(月)、UA ゼンセン流通部門・コープこうべユニオン 9名が、講義「日本労働運動の100年余り」をダイジェスト版で受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を40分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後は、展示室の見学をした。皆さんとっても熱心に受講しました。

4. 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン伝承塾「枝垂桜」6名

7月10日(水)～12日(金)、UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン伝承塾「枝垂桜」の6名が年間4回の最終回として受講。すでに常設展示の「日本労働運動の100年余」に加えて、友愛会や社会主義運動など「友愛会の運動の詳細から民主的労働運動を探る」と称し、現代につながる運動の流れは受講済。各自が課題の発表後、労働組合の企業統治のあり方(コーポレートガバナンス)、生産性運動三原則の変遷、政治の必要性と自由にして民主的な労働運動、次世代リーダーへの期待を受講した。活発な発表と質疑を通して、今後の運動に役立てることをお互いに誓い合いました。

5. お知らせ

友愛労働歴史館の夏季休館日のお知らせ

8月10日(土)～18日(日)は夏季休館とします。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedokishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedokishikan.com>

惟一館から130年、友愛会から112年